

MINORU NEWS

東村山市議会議員 渡辺みのる活動報告



小中学校の統廃合含めた公共施設再編

6月17日、「新しい学校はどうか？」と題したシンポジウムが開催されました。

少子化を理由とした学校の統廃合や公共施設の複合化、民間事業者を参入させるなど、国が進める「官民連携」を主眼とした内容です。公教育のあり方や学校としての存在意義などが大きく問われています。

小中学校22校を14校に

人口の将来予測をもとにしたデータ分析の結果、学校の「適正規模(※)」を維持したうえで、通学距離などを踏まえた「適正配置」のシミュレーションでは、現在小・中合わせて22校ある学校は、14校あれば十分であるという内容です。

現在の22校を維持した場合、小規模校となりクラス編成や教育活動に影響がでるという理由でしたが、国の少子化対策や少人数学級の進展に関しては全く触れられていません。

また、大規模化するデメリットも考慮すべきです。学校が大規模化し、教室が多くなれば必然的に建物そのものが大きくなります。十分な広さの校庭の確保や高層化の問題など、懸念すべき課題が残されています。

(※) 学校の適正規模とは...

クラス替えができることや集団での学びのためとして、学校教育法施行規則では、12～18学級が編成できる学校規模が適正としています。

子どもの声はどこに

今回示された、小中学校の今後の方向性は、民間事業者に委託した調査内容をもとに、市役所内部で検討されたものです。市民の声、とりわけ当事者である子どもの声はどこにも反映されていません。

市は、2022年に「あたらしい学校には何があったらいい？」というWEBアンケートを行いました。これは「学校を建て替える際に、どういう施設になって欲しいか」を聞いたもので、「統廃合をする」ことを前提としたものではありません。

大人の都合だけで子どもたちが生活する場である学校の今後の方向性を決めず、子どもたちの意見を反映することが絶対に必要です。

徹底した全市民的な議論を

学校施設だけでなく、これからの公共施設の方向性を検討するにあたって、当事者である子どもや地域住民はもちろん、すべての市民を巻き込んだ徹底した議論が必要です。

市には、反対意見も含めて真摯に受け止め、スケジュールありきではない議論をする姿勢を求めています。



ホームページを開設しました！
<https://watanabe.jcp-higashimurayama.net/>



YouTubeやっています！→
チャンネル登録もお願いします！



トラブル続出のマイナンバー 保険証との一体化は中止を

来年10月、紙の健康保険証を廃止してマイナンバーカードとの一体化が予定されています。

この間、他人の公金受取口座との紐付けや他人の証明書が発行されたりと、マイナンバーに関連したトラブルが相次いで発覚しています。

今年の5月以降、全国でマイナンバーカードの自主返納が急増しています。報道によると、情報漏えいに対する不安が大きくなっているとのこと。

また、紙の保険証をすることに對する不安も広がっています。高齢者や障がいのある方など、自らマイナカードを発行することが難しい方が、紙の保険証がなくなることで、無保険となる可能性があります。

国民の不安を無視してまで紙の保険証を廃止しなければいけない理由はどこにもありません。法律は成立しましたが、実施まで時間はあります。引き続き中止させるために声をあげていきます。



Twitter



Facebook



困ったときは共産党に相談を

生活保護は権利です。

年金が少ない、物価が上がって生活が大変など、暮らしのお困りごとがありましたらいつでもご相談ください。

年金や仕事、持ち家があっても生活保護を利用することはできます。

市役所に相談に行く際の同行も行っています。

お気軽にお電話ください。

渡辺みのるTEL:070-2177-7629

■東村山市議団法律相談

場所：東村山市役所 日本共産党控室

日時：毎月第1水曜日(月により変更有)

※要予約のため、渡辺までご連絡ください。

■しんぶん赤旗をお読み下さい！

日刊紙 月額3,497円

日曜版 月額 930円

お申込み、お問い合わせは

渡辺みのるにご連絡ください。

携帯番号：070-2177-7629

～渡辺みのる子育て日誌～

次女の9歳の誕生日。生まれたときから肌が弱く、甘えん坊の次女ももう3年生。子どもの成長は早いものだ。

誕生日の食べ物のリクエストは「(新幹線の)はやぶさのケーキ」。乳成分にアレルギーがあり、ホイップクリームが食べられない次女の具体的かつ高難度なリクエストに、私も妻も頭を抱えた。

どうやってはやぶさの緑をつけるのか、何をベースにケーキにするのかなどなど…。

お菓子作りが得意ではない私は手を出せず、妻が考えた答えは、クレープの生地の色を付け、カステラを囲うこと。

妻は完成度に「納得いかない」とリベンジをしたいようだが、次女はうれしそうにもりもり食べていた。